

・・・雨でも休まず、282, 283回・・・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・ 定例活動1：5月 2日（第一日曜日）；森林整備活動、担い手育成、技術向上。  
「持続的森林経営：森林地団地化・集約施業」を目指す。弁当持参、  
参加費：400円
- ・ 定例活動2：5月16日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、  
多様な森林活動、主食・自分のお椀・箸、飲料水。参加費400円  
\* お昼休みに井伊会員が自慢の“詩吟”をご披露する。  
.....
- \* 注意：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、汚れても良い服装  
着替え、滑らない靴 なるべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証  
飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸・何か美味しいものを準備する)
- \* 注意：危険管理・救急体制・森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

### 狙われる日本の森林

数年前、外国資本が日本の奥山の森林を買いに来ている・・・？。そんな噂を風の便りに聞いていた。まさか！と言う程度であったが最近、アチコチから耳に届くようになってきている。2006年、外国人が三重県大台ヶ原のダム湖上流や紀伊半島一体を調査したとか。2007年には長野南木曾でも同様の話が持ちかけられたとか。一昨年2008年には、当会の足元の相模川上流・桂川で「立ち木はどうでも良い、林地だけ1000ha、揃えて欲しい」とか。わが国の奥山が狙われている。

何故、こんな話が出てくるのか。何が問題か。どうすれば良いのか。

地球規模の森林減少のスピードはすさまじい。狙いは水。地球規模で水確保が難しくなってくる。国内では木材価格が低いとため私有林には手を入れられない。限界集落（過疎・不在地主）が増えて私有林の境界が分からなくなりつつある。その他、排出権取引、カーボンオフセット、トレサビリティ、企業CSR（社会貢献）など新しい問題も絡んでくる。

日本の土地所有に関する認識は、「土地所有権は、法令の制限内において、その土地の上下に及ぶ」。(民法207条)で成り立っているが、“法令の制限内”と云っても国内法に限るので、知らぬままに奥山を外国の関連企業に買われたら“治外法権／無法地帯”が、アチコチにできてしまわないか。森林の公益性・多様性を言うわが国の「森林・林業基本法」は、これから時代・世界の変化を見ながら地球規模で考える必要があるのではないか。

## 定例活動・小原本陣の森：4月4日（第一日曜日）

報告：川田 浩

活動日の第一日曜日・4日が、相模原市のさくら祭りに当たったため、本隊は市役所横の会場に参加した。

小原に来たのは、森林整備活動の参加者4人と木工班の2人。森林整備の4人は、高校の同級生で、山歩き、街道歩き、スキーなどを一緒にやっている仲間なので気心が知れている。

いつもは森の奥で森林整備をしているが、本日の作業場は森の入口の「小原の郷」の直ぐ横で、凡そ500平方メートルの傾斜地である。既に本職に頼んで間伐は一応終わっているが、斜面に残された枝の処理や枝を使った土留作業が本日の作業。鋸・鎌・高枝鋸などの道具を若柳基地まで取りに戻り、荷物を置いて現場に取って返して作業を始めた。

傾斜35度以上ある斜面で落ち小枝を払い、土留めする作業は油断すると転げ落ちるので、かなり苦勞する。枝打ちの足りない木は高枝鋸で下から7mくらいまで枝を処理した。上を見続けていると首が痛くなる。高所まで絡まったツタやフジズルは落とせず残ってしまい、後は枯れて落ちるまで待つしかない。

小原の郷でベンチを作っている木工班は、遠くから監視しており“どこそこが未だ不十分だ”とかありがたい指摘をしてくれた。小原の郷からの遠景できれいになったのを確認し、雨がパラツイテ来たので作業を早めに終了し、基地に戻り道具を片付け、少しばかりのシイタケを収穫して森を後にした。

## 定例活動・若柳嵐山の森

里山交流・国際FSCの森（4月18日：第三日曜日）

報告 伊藤小夜子

“春風、花々、女力・男力！”

四月半ば過ぎの昨日の積雪、寒い春だが森の入口には、いろいろの花々がちゃんと待っていてくれた。珍しいチューリップ（オランダ球根協会提供）、ピンクのヒヤシンス、紫のムスカリ等々、・・・お花畑班、草ぬきなど手入れを何時もありがとう。

参加者は常連の緑のダム会員24名、望星高校24名、学生連合フォレストノバ26名、NPOみんなの森3名、生命の森宣言・東京10名、毎日新聞の取材、神奈川新聞の取材2名、計89名の参加。

本部基地のシンボル樹・モミ大木の下に大勢の森仲間が集まるために、土が硬くなってこの木を痛めるように思うと云う声が数か月前から出ていた。土が固まると根が呼吸しにくくなるから木に取って良くないという話は以前に聞いたことがある。そこで、基地を隣地に移したのだが新基地は、空が見渡せる丸広場で明るい。

「良い季節、楽しく安全に・・・」の内野リーダーの活動の始まりの言葉も春風のように。

- ・ 過日の大風で、森の入口付近の県道に落ち枝や落ち葉で酷い汚れになっている。ここは、ハイカーや町の人々が沢山通るので森林整備班は、道路掃除をすることにした。掃除班に参加した鉄シャベル姿も凛々しい初参加の地元の松田さん「登山者の人々との挨拶が気持ち良かった、充実!」。もう一人の女性・清家さんは「きつい作業に逃げ出したくなかったけど、“行かないで!”と妖精の声が聞こえたよ。斜面の“一人静”を教えてもらって、身も心もいやされましたよ」
- ・ 望星の森では学校の50周年として東海大付属・望星高校ゆかりの(松前・前総長がお好きだったらしい)ケヤキを50本植林。高校生たちと先生方が黙々と作業に取り組んでいた。
- ・ 学生連合フォレストノバの初参加女子学生は、森見学。はたまた、ベテラン男子学生と女子学生は、伐採作業。今はもう、ジョーク有りの楽しげな雰囲気にも余裕と成長を見た!。沢山の先生方、先輩方に感謝。
- ・ ベテラン「生命の森グループ」の方々は、A地区の森林整備、その仕事ぶりの速さに石村事務局長もビックリ。免許皆伝で今後、このベテラングループは「自主活動」、乞う、ご期待。
- ・ 昼食は、かぶ、キノコ、ニンジンなどのおひたしサラダと豚汁を丸い広場で、たっぷり。

活動終了後、駅前食堂カドヤでは、ハイカーたちから「御苦労さま」と声をかけられる。

## 学生連合：フォレストノバ：さくら祭り参加報告

### 【さくら祭りを終えて】

さくら祭り統括 Forest Nova☆ 麻布大学 植木 聡



今回のさくら祭りで Forest Nova☆は「木を使うことは森を守ること」を発信し、木材(間伐材)を通じて「森林の価値」を高めてもらう。というのを目標に、間伐材を使い木に触れ合ってもらい、そして持ち帰った後も大切にしてもらえろという要素を考え、今回は「木の時計作り」「木のオブジェ作り」「ドアプレートづくり」の3点を出展しました。そして、作品づくりだけでなく紙芝居や交流を通し森の現状や環境問題に対して意識を持ってもらう。また実際に木を使ってもらうことで、私生活の中でも国産材を使おう、という意識を持ってもらい実際に森へ行き活動したい!と思ってもらえるのを目指しました。

さくら祭り当日では、当日ヘルプスタッフの方が2日で合計28名14大学も参加してくれました。これだけたくさんのスタッフに恵まれ、本番では各得意分野を活かし、試作品作りや子供の対応のポイントなど、一人一人が持っている得意分野での活躍もありました。また今回、Forest Nova☆のマスコットの着ぐるみも作りました。これが小学生だけでなく大人にも人気でとても賑やかで楽しんでもらうことができました。

参加した多くのスタッフのおかげもあり、2日を通し木のオブジェ作りとドアプレート作りは用意した材がすべて売れてしまうほどの人気ぶりでした!今回から作品と一緒に紙芝居を小さな絵本にして渡すようにしたので、これによりさらに一人一人に自分たちの伝えたいことがしっかりと伝えられたのではないかと思います。

最後に今回初めて統括という仕事をしてわからないことも多くあり迷っているところをたくさんの人に助けられました。個々が自分の仕事を最後まで自覚を持ってやりきっていかなければ、いい企画も目標を達成できなくなってしまいます。この経験を忘れずに今後つないでいきたいと思います。また、お客さんの中には去年、一昨年とFN☆のブースで作品をつくり、今年も作品作り楽しんでいかれた方がいました。こういった方がいたことにうれしくこれからも活動に意志を持っていっていきたいとおもいました。

## 湘南の森・活動報告：3月27日（土）

桜の開花情報も聞かれるようになりましたが寒さで見ごろになるのは遅れているようです。桜の名所の湘南平は未だ、一分咲きにもならない状況です。8名参加。



ニリンソウ Wikipedia Commons より

今回の初参加は21期の松山さんと息子の翔太君（7歳）はるばる湯河原から来てくれました。何時ものように全体を見回りながら、今日の作業内容を決めることにしました。フロントヤードではウコギが芽吹き始め、タケツケ花も満開、共に食べれ

ると聞いて夕食用に採取する人も。待望のカタクリの芽が出てきたのを確認、何年後に花が咲くのかが話題になりました。ムラサキケマンやヒトリシズカの花も確認できました。

本日の作業は「イチゴ通り」周辺の笹やぶ刈りを行うことにしました。「キコリ見習い」の私は和田さんに指導を受けながら、枯れた桜の樹をチェーンソーで2本伐採した玉切りをして集積しました。

直径30センチほどの古木は残念ながら寿命を迎えかえたようで、中間部が腐っていて安全上からも切っておいて良かったと思われるものでした。それにしても玉切りにした木を人力で運んで集積するのは腰に負担のかかる重労働、キコリは楽でないと思いました。ボランティアだから私のようなチンタラ作業でも誰も文句を言いませんが効率を重視するプロの途はもっと厳しいのだらうと思いました。「年収250万円では成り手がいないという」和田さんの話に納得した次第です。

帰りは、前回一輪しか見られなかった、高麗山北麓のニリンソウの群生地を再訪しました。今回は全部満開で豊かな森の贈りものを堪能しました。

・報告：市民ファンド決算報告は無事提出・受理されました。これに関わる成果報告会が4月17日14：00から市民活動センターで開催予定、各団体3名ずつに出席が義務つけられています。

このファンドの今年度の締め切りは4月23日になっており、団体として引き続き申請したいと思っています。ガイドマップの作成や観察会実施などを考えておりますが、アイデアを募集します。

“凄い！、桂北小学校・子供たちパワー。

指導：斎藤 憲弘



・・・桂北小4年生が、みんなで力を合わせて、こんな凄いもの作った・・・

## 報告1：かながわNPO映像祭り：3月26日

かながわ県民センター・2階ホールで約150人が参加して選考会が開かれた。

事務局の不注意のために降って湧いたように感じた募集に、慌てて運営会に相談をする間もなく、望星高校教諭・宮村会員に作業を振って1週間足らずの製作は「インタビューでつなぐ“望星の森”」と題した映像で応募した。結果、59団体のエントリーの中、優秀賞は逃したが26位以内の入賞を得た。

映像祭実行委員会では来年、第二回を計画しているそうだ。次回は、早めに準備して最優秀賞を狙う。





## 報告2：「第五回・森林と都市をつなぐ」：相模原さくら祭に協賛、

テーマ 相模原市 内陸グリーンハブ都市を目指す。

森林資源生産地と都市消費地を直結する。 4月3日～4日（土・日）

相模原さくら祭り5回目の参加は、テーマを明確にすると同時に 相模川の上流～中流～下流をつなぐ素材生産者・森林組合・設計士・工務店、商工会議所・市民団体および、木材の新用途（リグニン、エタノール、吸着分解剤など）を開発した研究者など16団体が一堂に集まって相模原市役所の第2駐車場を借りきってイベント森林広報を開催した。

桜は満開の3日(土)は、薄曇りのまあまあの花曇りと言う天気と人出であったが、4日(日)は肌寒く、午後は気温も下がって人出はグンと下がったが、参加団体は意気盛んであった。事業として直ぐには効果が上がらないこのような森林広報イベントに参加して下さった団体の方々には、心からお礼を申し上げます。



緑のダム・FSC材積み木、  
2万個を持ち込んだ



(社) 自然流の会の組み立て  
・・・デモハウス・・・

事前の相模原市に対する事前のテーマ広報も功を奏して環境経済局の責任者が会場に来訪して下さって行政としても、活動テーマに沿った配慮を約束して下さったことは間接的ではあるが大きな収穫ともいえる。



紙芝居で間伐の必要な事を教える。  
学生連合：神宮学生



木の時計工作教室参加を呼び掛ける。  
学生連合：嶋本学生



### 報告 3 相模原市政令指定都市

移行記念式典：4月14日（水）

相模原市がわが国19番目の政令都市になった。戦後、初めての指定都市である。加山市長は、相模原市の地政的な観点から、相模原市は「内陸・ハブ都市になる」と宣言した。



加山市長

式典は、相模大野駅前のグリーンホール相模大野・大ホールで簡素でも内容のある新生政令都市に相応しい内容であった。

開幕の青山大学ジャズバンドと閉幕の相模原音楽家連盟のバロックアンサンブルの演奏相模原市の文化水準の高さも証明する見事な演出であった。

市は、移行に伴う大変な課題を抱えていると思うが加山市長の力強い移行宣言は、相模原市森林行政に関わるものとして大いなる希望を抱かせることとなった。

### 報告 4 服部茅ヶ崎市長へ申入れ

相模川中流・上流をつなぐ：4月15日（木）

当会は、相模川中流の相模原市に「内陸・グリーンハブ都市」を提案している。グリーンとは、“緑のダム＝森林の保水力”を云う。相模原市は神奈川県の中流にあつて、県の上水の61%を供給する水源地に位置する。

「木を使うことは、森を守ること」を標榜する当会として、上流・大月市（甲斐東部材製材組合）、上野原市（北都留森林組合）、中流・相模原市（相模原市環境経済局）とは連絡を取り合つて相模川流域材の流通システムに取り組んでいる。そこで下流・都市部に「木を使ってもらいたい」との働きかけである。

8年前にご縁のあつた服部茅ヶ崎市長に面会を求めて其の旨、申し入れた。服部市長は、当会の意図することを快く素早く理解して、その場で関係部署に繋いで下さつた。関係部署職員にもジックリと話を聞いて頂き、話だけで終わらない仕組みづくりに取りかかる事となった。こんな事ども、森林NPO冥利に尽る活動に繋がっている。

## 森林 NPO を、どう生き延びるか。

非営利活動法人と言え、当会は法人と言う人格を持って活動する団体である。人格と言う限り ① 生命・生存権 ② 権利義務 ③ 品性・道徳性 を全うしなければ成らない。生命・生存と云う意味で、設立 5 年目の NPO 生存率が 20% というのは、どうしたことか。権利義務を果たしているか。品性・道徳性はどうか。

- ① 生き延びると云う観点から：NPO は、使命感・情熱とか理想（熱い心）が先走っているために、生き延びるためのビジネスマインド（冷めた頭）に欠けているように感ずる。その意味で当会も気を付けねばならない。

\* NPO 活動の発達している米国で NPO への寄付金額は年間 20.5 兆円だが日本では、2600 億円に過ぎない。米国では寄附を受けている団体も 40 万以上だが、日本で寄付控除の減免対象団体は 116 にしか過ぎない。理由は寄附文化の違いと言われている。欧米では、収入は神からの贈物であるから、その 1/10 は教会か、公共事業を代行する NPO へ寄附をしている。日本では仏教での因果応報の思想が影響してか、寄附文化が育ちにくい。

- ② NPO 側は、自分の果たすべき義務を十分に全うしているだろうか。自分は良いことをしているからという意識から権利を強調しすぎてはいないだろうか。

- ③ NPO の品性・道徳性に問題はないか。生存率 20% と云うのは、ビジネスマインドの欠如だけではないようにも思われる。また、品性・道徳性に欠けるために「そんな非営利活動は、迷惑だ」と思われるような行動はないだろうか。

これは何も NPO だけとは限らない。公益法人、福祉法人、財団法人などにも当てはまる。このような生意気なことを云う当会として、それなりに試練を乗り越え bvg で 13 年間を活動してきた。であるから当会の活動には、厳しい“世間の目”が光っていると自覚している。こんなことも常時、考えていたい。

- 
- ・活動のモットー : 急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・・  
そして、沢山の参加で森は、良くなる。(台風の日も勉強会開催。13年間、一日も休まず“継続は力”。)
  - ・名 称 : 特定非営利活動法人 緑のダム北相模
  - ・事 務 局 : 154-0023 東京都世田谷区若林 3-35-9  
発行人 : NPO 緑のダム北相模 運営委員会 03-3411-1636
  - ・URL : <http://www.midorinodam.jp> E-mail: [midorinodam@rk9.so-net.jp](mailto:midorinodam@rk9.so-net.jp)
  - ・協働団体 : セブン-イレブンみどりの基金、相模原市(市民協働推進課)、東海大付属・望星高校、生命の森宣言・東京
  - ・ご支援の団体 : WWF/JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県協同組合、JFE メカニカル、東急コミュニティ